

ウェブサイト▶<https://www.yotsume-holdings.com/>

【取組のプロセス】

平成23年

東日本大震災により養殖ホヤ産業に壊滅的被害

きっかけ

地域でのホヤ業の担い手不足が深刻化していたことを背景に、廃棄していた小さいホヤに着目。障害者が一次加工の担い手となることで商品化に成功。水福連携と産業の持続化等に取り組む。

令和2年

三陸ラボラトリ株式会社設立

東日本大震災による被害と産業の担い手不足

- 平成26年には出荷体制が整ったものの、原発事故による各国の輸入規制により、生産量の6割のホヤを廃棄。
- ホヤの廃棄分、値下がり分についての産業補償も令和3年に終了。
- 需給が不透明なため、ホヤ業の廃業が増加。地域における産業の継ぎ手、担い手不足が深刻化。



体験会・説明会の様子

令和3年

廃棄分のホヤに着目。事業化

規格外品に着目。福祉就労との連携で商品化に成功

- ホヤは規格品を300Kg水揚げするために3,000Kgの規格外品が発生していたが、それらは廃棄されていた。そのため、廃棄されていたホヤに着目し商品化に取り組む。
- ホヤの商品化のためには、一次加工で殻剥きが必要だが、この一次加工の担い手がない状況。そこで、福祉就労との連携を検討し、地域の就労継続支援B型事業所からの施設外就労で障害者が一次加工に取り組む体制を構築し規格外品の商品化を実現。併せて一次加工の担い手問題も解消し、障害者への工賃提供にも成功。



殻ホヤの出荷作業

令和4年

水福連携の取組を開始

取組の広がり

- 2年目からは、ホヤと同様に環境問題や再利用課題のあるカキ、ウニ、ホタテ、わかめ、等にもチャレンジしている。
- 水福連携のモデルとして、他の水産地域からもアドバイスを求められる機会も増え、新たな連携が生まれている。
- 障害者就業・生活支援センターとハローワークとの連携、施設外就労からのステップアップという形で、雇用も実現。



ウニ詰め作業（高度な作業）

今後の展望

水産缶詰、クラフトビール等、新商品の開発

水福連携の推進

- 水産物の缶詰、加工品、クラフトビール等の商品開発が進行中。開発の中で、地域のデザイン企業や、デザインを扱うB型事業所との連携を進める。また、業務委託でシール貼りやアートデザイン利用等を通して更なる水福連携の推進を図る。
- 事業と人とのマッチングモデル事例として、人材育成コーディネートを行う事業体と連携し、地域の農林水産業経営体に広報を展開。



ウニ完成品